



以下は、私の文章ではありません。

18年ほど前に、上の娘が、インターネットで見付けて夢中になって読んでいた文章です。当時小学校高学年だった娘には、複雑な思いや葛藤があったのですが、この文章を読んで、ほっとしたような表情を見せたことを思い出します。誰の文章かは分かりませんが、印象的だったので、記憶を辿って紹介します。



サンタクロースを信じられない子供たちはきっと、何でもうたがう、うたがい病にかかっているんだと思います。自分に見えるものだけしか信じない、自分に理解できないことは、何でも嘘だと思えてくるんです。それは、無理もないことだとは思いますが・・・。

人間の知識や心というものは大人でも子供でも、みんな小さいものです。この偉大な宇宙の中では、人間を囲んでいる限りない世界に比べると、人の知性はとてもちっぽけなもので、存在する真理と知識の全ては、人間にとっては、本当は計り知れないものなのです。

「サンタクロースなんていない」なんて言うのは、妖精を信じないのと同じです。クリスマスにお父さんをお願いして、誰かをやとってもらい、町中の子供がいる家を見張ってもらったらどうでしょう。サンタクロースがつかまるかもしれませんよ！でも、つかまえたサンタクロースが見えなかったとしても、それは、サンタクロースがいないということの証明ではありません。

この世の中で、人の心に関する真実は、子供にも大人にも、目には見えないものなのです。

あなたは、妖精が芝生の上でダンスをしているのを見たことがありますか？見たことはないでしょうが、だからといって、それが妖精がいないという証拠にはならないのです。この世の中にある不思議なことは、全て答えが分かるとは限りません。

人は、中の何が音をたてているのか見たくて、赤ちゃんのがらがらを分解したりします。でも、目に見えない世界を覆っているベールがあって、破ることができないベールもあるのです。

信じる心や、夢や、愛がベールを開き、その向こうにある美や栄光を感じさせてくれるのです。

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年12月17日（ ）年（ ）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただけるとありがたいです。

※担任に御提出いただいても、校長室前のポストに直接入れていただいても、校長に直接手渡していただいても、いずれでも結構です。